



完全保存版「自然素材住宅塾」



今の住まいと将来の住まいに役立つ情報満載

こんにちは。駿河屋の九代目当主一樹（いちます）です。
なんだか雨が多かった今年の秋のはじまり、急に寒くなったりして体調くずしたりしていませんか？食欲の秋で美味しいものを沢山食べて、冬に備えましょう！
それでは、今月も子育てママにお役にたてる、大切なこと、発信します！

【住まいづくりにパパ・ママのルーツを入れる】

住まいづくりでパパやママの「ルーツ」（祖先・根源）を伝えるって、どういう事なのでしょう。両親のルーツを伝えるということは、子供のアイデンティティー（自分自身であるということ）をしっかりと育むうえで、とても大事なことです。それに、住まいづくり自体がとっても豊で楽しいものとなります。さらには、出来上がった住まいに対する愛着がより大きくなります。今日はそんな住まいづくりの大切なお話しをします。

住まいづくりのご相談にいらした方に、僕が聞く質問があります。それは「お生まれはどちらですか」「田舎はありますか」という質問です。

一体、なぜそんな質問をするかという、生まれ育った田舎の木や土などの自然から生まれた素材を住宅の建材として用いることで、住まいづくりにパパやママ、おじいちゃんおばあちゃん、もしくは遠いご先祖様までも、新たな住まいと繋がる事が出来るからです。

こうしたエッセンスを入れて創られた新たな住まいの事を、パパやママの田舎の思い出とともに子供たちがに伝えながら子育てをすることで、子供たちはその歴史や繋がりを五感で少しずつ受け取ることができるのです。

「床の木はおじいちゃんちの裏山の木なんだよ」「ママが育った田舎から来たんだよ」なんて子供たちに伝えたら、それを聞いて育った子であれば、もしもいつの日か、その住まいを解体することになったとしても、「床板だけは剥がして再利用したい」と言ってくれると思いませんか。そしたらパパやママのみならず、造り手のみんなもとっても嬉しくなります。

